

集落遺跡における発掘作業工程及び記録成果の標準

1 事前準備及び表土掘削			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
事前準備	◎	遺跡位置図	1/10,000～25,000地形図・都市計画図等に位置を表示
	△	物理探査成果等	成果簿、図面(委託調査等)
表土掘削前の現況の記録作成	◎	基準点・水準点測量成果	3～4級、工事図面等の成果でも可
	◎	表土掘削前測量図・地形図	1/200～1/500、等高線は0.5～1m 工事図面等で代用可
	◎	遺跡全景写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
	△	遺跡映像記録	
	○	空中写真	
表土等の掘削	○	状況写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
2 調査区設定・遺物包含層掘削			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
調査区・土層観察用ベルト設定	◎	調査区配置図	1/200～1/500
	○	地区割り図	1/200～1/500
	◎	調査区基本土層図	1/20
	◎	調査区基本土層写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ
	△	調査区基本土層映像記録	
遺物包含層の掘削	◎	遺物出土位置記録(遺物台帳等)	
	○	遺物出土状況図(土器溜まり等)	1/10～1/20
	○	遺物出土状況写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
	△	遺物出土状況映像記録	
3 遺構検出及び遺構覆土掘削			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
遺構検出 ※ 降下火山灰直下の旧地表面は重要な情報を含む可能性が高いので、通常の遺構面以上に慎重に扱う必要がある。	○	遺構検出状況図	1/20～1/100
	○	遺構検出状況写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
	△	遺構検出状況映像記録	
	△	遺構検出状況空中写真	
	◎	遺構配置略図	1/100程度
遺構覆土の掘削	◎	各種平面・断面図	1/10～1/20
	◎	各種平面・断面写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
	◎	遺物出土位置の記録(遺物台帳等)	
	○	遺物出土状況図	1/10～1/20
	○	遺物出土状況写真	袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ(複数方向)
△	遺物出土状況映像記録		
4 調査区全体図及び全体写真			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
調査区全体図作成・全体写真撮影	◎	調査区全体図・地形図	1/100～1/200、等高線は0.5～1m
	◎	調査区全体写真(空中写真)	
	△	調査区全体映像記録	
5 補足調査及び埋め戻し			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
補足調査	◎	トレンチ位置図	1/100～1/200
	◎	土層断面図・写真等	1/20～1/40、袖ヶヶーボジヶヶーモノクロ
	○	土層剥取り・遺構切取り等成果品	
	○	分析委託成果品	年代測定、火山灰分析、花粉分析等
埋め戻し			
撤収			
〔取扱〕 ◎：原則として必須、○：状況により必要、△：その他 (注) 図面の縮尺率は一般的な例であり、状況により異なる場合がある。			

竪穴住居跡の発掘作業工程及び記録成果の標準

1 遺構面精査及び覆土調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
遺構面精査・遺構検出 ※降下火山灰に覆われた住居については、火山灰（軽石）層中の情報にも十分注意する。	○	遺構検出状況平面図	1/20
	○	遺構検出状況写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	遺構検出状況映像記録	
覆土掘削	◎	遺物出土位置記録（遺物台帳等）	
	○	遺物出土状況平面・断面図	1/20
	○	遺物出土状況写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	遺物出土状況映像記録	
覆土断面の記録・土層観察用のベルト除去	◎	土層断面図	1/20
	◎	土層断面写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ
	△	土層断面映像記録	
2 床面の調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
床面遺物の記録	◎	遺物出土状況写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	遺物出土状況映像記録	
	◎	遺物出土状況図	1/10～1/20
	◎	遺物出土位置記録（遺物台帳等）	
3 柱坑及び付属施設の調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
柱穴・付属施設のプランの確認	○	床面検出状況写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	床面検出状況映像記録	
	○	柱穴掘り方、柱痕跡平面図	1/10～1/20
柱穴・付属施設の掘削、断面図の記録、柱穴の完掘	○	柱穴土層断面図	1/10～1/20
	○	柱穴土層断面写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ
	△	柱穴土層断面映像記録	
	◎	炉・カマド平面図、土層断面図	1/10～1/20
	◎	炉・カマド平面図、土層断面写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
4 遺構全体実測及び写真撮影			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
遺構全体の実測・写真撮影	◎	住居跡平面図	1/20
	◎	住居跡断面図・エレベーション	1/20
	◎	住居跡完掘写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	住居跡完掘映像記録	
5 掘り方調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
掘り方調査	◎	掘り方土層断面図	1/20
	◎	掘り方平面・断面図	1/20
	○	掘り方写真	袖カラー・ボジカラー・モノクロ（複数方向）
	△	掘り方映像記録	
〔取扱〕 ◎：原則として必須、○：状況により必要、△：その他 （注）図面の縮尺率は一般的な例であり、状況により異なる場合がある。			

古墳・生産址（窯跡、製鉄炉）等における発掘作業工程及び記録成果の標準

1 事前準備及び覆土調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
事前準備及び遺構周辺掘削前の記録作成		別表 1-1 に準拠	
遺構内覆土層の掘削		別表 1-2 に準拠	
遺構内覆土断面の記録・土層観察用ベルトの除去		別表 1-2 に準拠	
2 墳丘面または使用面の調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
墳丘面使用面遺物の記録		別表 1-2 に準拠	
3 付属施設の調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
付属施設の確認	○	各施設検出状況写真	袖ヶ倉→ボジヶ倉→モノクロ(複数方向)
	△	各施設検出状況映像記録	
付属施設の掘削	○	遺物出土状況図	1/10～1/20
	○	遺物出土状況写真	袖ヶ倉→ボジヶ倉→モノクロ(複数方向)
	◎	遺物出土位置の記録(遺物台帳等)	
	○	土層断面図	1/10～1/20
	○	土層断面写真	袖ヶ倉→ボジヶ倉→モノクロ
	△	映像記録	
4 遺構全体の実測及び写真撮影			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
遺構全体の实測・写真撮影	◎	遺構平面図(付属施設を含む)	1/10～1/20
	○	同立面図(古墳の場合) (奥壁・側面・前壁・玄門・開口部・閉塞部)	1/20
	◎	同断面図(古墳の場合) 遺構長軸(前庭・開口部・玄門・ 玄室・奥壁・天井・閉塞部) 短軸(前庭・開口部・玄門・ 玄室・閉塞部)	1/20
	◎	同完掘状態写真(付属施設を含む) 古墳の場合 (前庭・遺構内床面・奥壁・側面・ 前壁・玄門・開口部・閉塞部)	袖ヶ倉→ボジヶ倉→モノクロ(複数方向)
	△	同完掘状態映像記録	
5 遺構全体の实測及び写真撮影			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
調査区全体図作成・全体写真撮影	○	遺構配置図	1/100～1/200
		他は別表 1-1 に準拠	
<p>[取扱] ◎：原則として必須、○：状況により必要、△：その他 (注) 図面の縮尺率は一般的な例であり、状況により異なる場合がある。 古墳以外の遺構については、それぞれ該当する項目を読み替えるものとする。</p>			

水田跡・畠跡における発掘作業工程及び記録成果の標準

1 事前準備及び覆土調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
事前準備及び遺構周辺掘削前の記録作成		別表 1-1 に準拠	
表土等の掘削		別表 1-1 に準拠	
2 遺構の検出			
調査区・土層観察用ベルト設定		別表 1-1 に準拠	
遺構検出		別表 1-1 に準拠	
3 遺構面調査			
歩行痕、耕作痕、根株痕等	◎	出土状況図	1/10～1/20
	○	出土状況写真	袖ヶケアー・ボジヶケアー・モクロ(複数方向)
	△	型取り	石膏等
4 付属施設の調査			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
付属施設の確認 (畦、溝、堰、水口等)	○	各施設検出状況写真	袖ヶケアー・ボジヶケアー・モクロ(複数方向)
	△	各施設検出状況映像記録	
付属施設の掘削	○	遺物出土状況図	1/10～1/20
	○	遺物出土状況写真	袖ヶケアー・ボジヶケアー・モクロ(複数方向)
	◎	遺物出土位置の記録(遺物台帳等)	
	○	土層断面図	1/10～1/20
	○	土層断面写真	袖ヶケアー・ボジヶケアー・モクロ
	△	映像記録	
5 遺構全体の実測及び写真撮影			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
遺構全体の実測・写真撮影	◎	遺構平面図(付属施設を含む)	1/40～1/100
6 調査区全体図及び全体写真			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
調査区全体図作成・全体写真撮影		別表 1-1 に準拠	
7 補足調査及び埋め戻し			
発掘作業工程	取扱	記録成果等	成果品の仕様及び内容
補足調査		別表 1-1 に準拠	
<p>[取扱] ◎:原則として必須、○:状況により必要、△:その他 (注) 図面の縮尺率は一般的な例であり、状況により異なる場合がある。</p>			

各掘削作業の標準歩掛と補正係数 (1)

集落遺跡・遺物散布地

作業項目	標準歩掛	補正項目	補正係数とその内容	
表土掘削 (スコップ使用)	2.5 m3 /人日	土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9	※ 表土及び無遺物層の掘削は機械掘削を標準とするが、やむをえず人力による場合この歩掛を適用することとする。
包含層掘削Ⅰ(稀) (スコップまたは ジョレン使用)	0.9 m3 /人日	遺物内容	包含層確認: 1.1	(試掘・確認調査など遺物が出土するかどうか不確かな場合)
		土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9 非常に硬い: 0.8	(沖積低地や自然堤防等で粘土質の土層が堆積する場合) (ソルハンやブレイカーを併用する必要がある場合)
包含層掘削Ⅱ(密) (ジョレン・ 移植ゴテ併用)	0.7 m3 /人日	遺物内容	多量・複雑: 0.9	(多量の遺物の出土や遺物の種類・保存状態等により作業効率が下がる場合)
		土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9 非常に硬い: 0.8	(沖積低地や自然堤防等で粘土質の土層が堆積する場合) (ソルハンやブレイカーを併用する必要がある場合)
遺構検出 (ジョレン使用)	2.0 m3 /人日	遺構識別 難易度	表土直下: 1.1 ローム上面: 1.1 黒ボク土中: 0.9	(沖積低地や自然堤防上の遺跡を除く)
		遺構密度	非常に濃密: 0.8 密: 0.9 稀: 1.1	
		土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9	
遺構掘削 (移植ゴテ使用) ※ 下記以外の遺構	0.4 m3 /人日	遺物内容	多量・複雑: 0.9	(多量の遺物の出土や遺物の種類・保存状態等により作業効率が下がる場合)
		土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9	
遺構掘削 (移植ゴテ使用) ※ 縄文時代の竪穴 住居及び水場遺構 等上記によりがたい 場合	0.3 m3 /人日	遺物内容	多量・複雑: 0.9	(多量の遺物の出土や遺物の種類・保存状態等により作業効率が下がる場合)
		土質	粘土質: 0.9 硬い層: 0.9	
火山灰に埋もれた住居 遺構検出 (ジョレン使用)	0.4 m3 /人日	遺構密度	多量・複雑: 0.7	(降下火山灰覆土中に多量の情報が含まれる等により作業効率が下がる場合)
火山灰に埋もれた住居 遺構掘削 (移植ゴテ使用)	0.2 m3 /人日	遺物内容	多量・複雑: 0.9	(多量の遺物の出土や遺物の種類・保存状態等により作業効率が下がる場合)
(注)				
(1) 下記の調査条件では、上記の歩掛に0.5の補正係数を乗ずることとする。 調査条件 寒冷地における積雪時及び調査面凍結時 (上記条件では原則として調査を実施しないものとするが、実施する場合適用するものとする)				
(2) 下記のような調査条件では、同様に0.9の補正係数を乗ずることができる。 調査条件 1 急傾斜地 2 排水条件が不良、もしくは常時排水を必要とする場合 3 調査範囲が狭小 4 遺構面が非常に深い場合(概ね地表面から1.5m以上下がる場合) 5 極端に交通等の不便な場所の調査 6 その他明らかに効率を低下させる条件のある場合				
(3) 各作業の適用歩掛は、標準歩掛に各補正項目の補正係数を乗じ、小数点以下第3位を四捨五入して第2位まで求める。なお、調査条件による補正を行う場合は、さらにそれに上記の係数を掛け、同じく小数点以下第2位まで求める。				
(4) 遺構検出作業においてジョレンによることが困難で、もっぱら移植ゴテによる場合は、包含層掘削Ⅱの歩掛を適用する。				
(5) 土器集中や旧石器時代のブロックなど移植ゴテで掘削を要する場合は、遺構掘削の歩掛を適用する。				
(6) 掘削土量が大い堀や大溝などは、スコップ使用の包含層掘削Ⅰあるいはスコップ・移植ゴテ併用の包含層掘削Ⅱの歩掛を適用する。				
(7) 旧石器時代の試掘を行う場合には、包含層掘削Ⅰの歩掛を適用する。				

各掘削作業の標準歩掛と補正係数 (2)

集落遺跡・遺物散布地以外

	作業項目	標準歩掛	補正項目	補正係数とその内容	
古墳	墳丘・周溝調査	1.0 m ³ / 人日	遺構内容	複雑: 0.8	(葺石を伴う場合)
			遺物内容	多量: 0.9	
			排土条件		
	主体部・墓道精査	0.2 m ³ / 人日	遺構内容	複雑: 0.8	(礫・粘土等の槨・床を伴う場合)
			遺物内容	多量: 0.8	
			排土条件		
窯跡・製鉄炉等	遺構検出	1.0 m ³ / 人日	遺構内容	複雑: 0.8	
			遺物内容	多量: 0.9	
			排土条件		
	遺構掘削	0.2 m ³ / 人日	遺構内容	複雑: 0.8	遺構が狭隘な場合も含む
			遺物内容	多量: 0.8	
			排土条件		
水田跡・畠跡	遺構検出 (ジョレン使用)	1.0 m ³ / 人日	土質	テフラ直下 1.0	As-A、As-B、As-C、Hr-FP等
				洪水層下 0.8	覆土が洪水層・テフラ混入土層等
				鉄分沈着 0.5	
	遺構掘削 (移植ごて使用)	0.5 m ³ / 人日	土質	粘土質 0.8	
				鉄分沈着 0.5	
(注)					
別表 3-1 の (注) の (1) ~ (7) については、この表においても同様に適用するものとする。					

各掘削作業の標準歩掛と補正係数 (3)

低湿地遺跡の扱い

低湿地 (常時湧水が認められ、排水条件が極端に困難な場合) は、調査の効率が別表 3-1 及び 3-2 と大幅に異なるため、別途示すこととする。

こうした低湿地の標準歩掛は、以上のことから別表 3-1 及び 3-2 に示した各項目の歩掛にそれぞれ 0.5 を乗じて求めることとする。

なお、この場合、別表 3-1 の (注) 以下については適用しない。

調査事務所の標準仕様

件名	①3ヶ月をこえる場合	備考	
担当者用事務所	ユニットハウス3連1棟	ユニットハウス1連は240×540cm相当とする	
基本仕様	内装 標準内装(天井・床・壁面内装あり) 外装 標準外装(入口階段、下屋、網戸等あり) 電気 設置 水道 設置 電話 設置 機械警備 設置 ガス プロパンガス設置		
器材庫	ユニットハウス3連1棟		
遺物庫	器材庫と兼ねる		遺物量が標準より多い場合は別途検討
作業員スペース	作業員10人当たりユニットハウス1連で算定		
トイレ	大4・小2		
調査体制	担当2、補助員2～4、作業員30を想定		
その他			
件名	②3ヶ月以下		
担当者用事務所	ユニットハウス2連1棟	ユニットハウス1連は240×540cm相当とする	
基本仕様	内装 基本内装のみ 外装 基本外装のみ 電気 設置 水道 設置(設置困難な場合は別途対応) 電話 設置 機械警備 設置 ガス ミニボンベ・カセットコンロで対応		
器材庫	ユニットハウス2連1棟		
遺物庫	器材庫と兼ねる		
作業員スペース	作業員10人当たりユニットハウス1連で算定		
トイレ	大2・小1		
調査体制	担当1～2、補助員2、作業員20以下を想定		
その他			
件名	③小面積及び1ヶ月未満		
担当者用事務所	ユニットハウス1連1棟	ユニットハウス1連は240×540cm相当とする ただし、これにより難しい場合はより小さな規格 のもので読み替える。	
基本仕様	内装 基本内装のみ 外装 基本外装のみ 下屋なし 電気 設置(設置困難な場合は別途対応) 水道 設置(設置困難な場合は別途対応) 電話 設置(設置困難な場合は別途対応) 機械警備 電話設置可能な場合は設置(設置困難な 場合は別途対応) ガス ミニボンベ・カセットコンロで対応		
器材庫	ユニットハウス1連1棟		
遺物庫	器材庫・遺物庫、作業員スペース兼ねる		
作業員スペース			
トイレ	大2		
調査体制	担当1、補助員、作業員5程度を想定		
その他	上記によりがたい場合は、別途検討することとする。		